

キャサリン・サンソム『東京暮らし』

牧 野 陽 子

第二章

私たちが日本に住んでいると聞いて、多くの人が尋ねるのは、お米の食事に飽き飽きしないかということ
す。

しかし近頃では、伝統的な日本食のみに完全に頼っている外国人などいないでしょう。日本人自身でも裕福な
者は、実に様々な外国の食品を毎日の食卓に数多く取り入れているのですから、外国人がそうしなかつたら、そ
れは全くの天邪鬼というものです。

食生活の問題は、日本で近代化とともに興味深い歴史をたどってきました。古来の料理が我々のものとは余り
に異質なので、外国式の食べ物の作り方を学びたいコックは、鋭い勘を働かせて一つ々々の料理に挑んできたの
です。東京の国際社会の中では、イギリスのビートン夫人の本から最初の基礎を学んだり、主人がかなりグルメ
のフランス人の家庭で修業を積んだり、ドイツ、ロシア、スエーデン人の主婦からその国の美味しい料理の手は

どきを受けたことがあったり、イタリア人の家庭のシェフを親友に持っていたりするようなコックを譲り受けることができず。

もし自分自身日本語が片言でも話せるか、あるいは家に少々英語のできる召し使いを雇ってさえいれば、今の東京で、優秀ならぬ料理技術で我慢するのは馬鹿らしいことです。おそらく優れた料理人のうちで英語を、少なくとも英語だと判る言葉と話せる者は極めて僅かでしょう。彼らは賢明にも当面の問題、つまり美味しい食べ物を作ることに努力を集中させてきたからです。

世界中どこでも同じように、良い給料を払える方が、当然そうでないよりは優れたコックが手に入ります。しかし、これまた余所と同じく、絶対必ずそう決まっています。だから、ある家庭で幸せに感じなければ、突然他の家庭を選ぶことだってあるのです。決して給与の額がいつも問題なのだとは限りません。そして彼が純粹に経済的理由で他人の家庭の方を選ぶのではないとすれば、本当の原因はこちらには最後までわからないでしょう。まず第一に、彼自身それを言葉にして表して説明することが滅多にできません。それにどちらにせよ、何か余程彼を怒らせる事をこちらがしたのでない限り、お互いの平穏な雰囲気わざわざ口論で無残に乱したくないでしょうから、苦情をいうよりは自分を抑えて威厳ある沈黙のなかに身を引く方が彼にとっては簡単なのです。

というわけで、田舎の弟が病気だとか、毎年恒例の亡き父の墓参りに帰らなくてはならないなどの、いつもの口実が出されることになります。

この国では、誤解という点で相当苦勞させられるかもしれません。率直な質問に率直に返答する能力に明らか

に欠けているこの人々にはしばしば腹が立ちます。でも間違はなくひとつ幸いなことは、使用人と袂を分とうとする時も、険悪な場面を経験しなくてすむということです。たとえ彼が酔っぱらいで、賭事に身を打ち崩すような人間でも、こちらが品位ある態度で望めば、向こうもそうすることは確かです。

日本の格言は、インドや中国から来たものが多いのですが、怒りに対する戒めに満ちています。もしあなたが不機嫌になったりすれば、召使いたちは、きつと具合が悪いのだろうと決めてかかり、普通は穏やかな人だということを思い起こしつつ、あなたが平常に戻るのを悟り顔で待つわけです。でももしあなたが度々腹を立てるようなら、彼らはあなたが頭が変になったのではないかと想像します。思うに実際そうなのでしょう。

私たちの家では毎朝、コックが白の上下服とエプロン、ばちと鬘付けされた白帽という料理人の装いに身を包み、その日のメニューの案を持って現れます。それは世界共通の美食用言語であるフランス語で書かれてあります。私たちは天気について二言三言優雅に会話を交わし、買い求めたばかりのちよつとした陶器や錦織物の見事に感心し、あるいは私の生け花を批評したり、庭を眺め渡して水仙の蕾が頭を出したかどうか見たりして、それから私は前の晩に出席した他所の晩餐会のメニューを彼に見せます。彼と私はこのメニューをざっと検討して、わが家のレパートリー拡大のための参考にします。というのも、毎日同じ好物の料理が供されないか、いつも敵しく見ていなければならないからです。彼は私たちを喜ばせようと一生懸命ですし、日本人の頭の中では多様性という考えは重きをなしません。察するに、物事が単調でも彼らは私たちのようにうんざりしたりはしないのでしよう。

東京にはかなり強力な召使の組合があり、それに対する外国人雇い入れ者の側からの不満の声も度々耳にします。

しかしながら私自身はそこを通して幸運な目にしかあってません。ふたつの文明が隣合わせに暮らす都会では、熟練した少数の技術保持者のための中央情報交換センターが必要なのです。召使の人員に空きが生じた時、自分または他所の家の奉公人の親戚や友人に声をかけるといふ昔ながらのやり方で、空いたポストを迅速かつ満足に埋めることがいつも簡単にできるわけではありません。それに実際、奉公人にとって、連れてきた候補者を断られてはっと胸を撫でおろす場合だって往々にしてあるのです。良い話は親類縁者にまわすべきだというのが社会全体共通の考え方なので、彼は知人にチャンスを与えるべき義理を感じるのでしょうか。でも、だからといってその候補者の適確性を主人以上に信じていることにはなりません。彼はチャンスを与え、主人が不採用にした一からこれでは彼は誰からも非難される筋合いはなくなります。彼は仲間に対しては公明正大に手札を見せたのだし、主人の判断という御旗のもとで堂々と表を歩くことができます。私の友人が一度、庭師が欲しくて、家の“ボーイ”頭に誰か探してくるよう求めたことがありました。すると見るからに悲惨な風体の浮浪者が連れてこられたのです。そのような不適任者を突き出されて友人は当然ながら驚愕し、ただちに追い払いました。それから彼はこのように無駄に時間を費やした“ボーイ”を叱責したところが、男は輝くような笑顔で、あの与太者に仕事の口を提供する振りをせざるをえなかったのです。でも今やこれで天が差し向けた唯一無二の庭師を選ぶのに何の差し支えもなくなりました、実はもうそこに控えて面接を待っております、と説明したのでした。

まことに、日本というのは、他のどこにもまして機転を働かす必要のある国です。とはいえ、もしたまたま生まれつき勘のいい性格に恵まれなかったとしても、日本人の持つ昔ながらの奉仕心というすばらしい伝統の御陰で、他の大方の国でほど苦勞もせずになすむでしょう。もっとも、時たま運の悪い出来事にはぶつかるかもしれま

せんが。

そしてここで、日本の他のすべてのことにおいてと同様、言葉という真に厄介な問題に突き当たって困るはめになります。ある程度日本語を操ることができれば、ひどく気詰まりな事態は少なくとも何とか切り抜けることで自分を助けるのみならず、あなたを助けようとする日本人をも助けることができます。あなたなら簡単にできても、彼の方からは事態解決の橋渡しをすることができません。彼の受けた訓練と人間関係がそうさせないので。そして問題の根源を突き止めようとしても不可能なのはまず確かですから、最初から試みない方が賢明です。うまく行ってせいぜい漠然とした感触が得られる程度です。問題に深入りせず、周辺を行った方が相手だっ
てはっとします。互いに深い谷底には目をやらず、優雅に愛想よく、崖の縁を歩くうちに、ああ！ 何とか安全地点にたどりつけるのです。

時には、妥協して本当に「日本式に従う」のがいいこともあります。そうしなければびりびりした空気が和らげられないような場合です。ある時わが家で、一二週間の間に相次いで災難がふりかかってきたことがあります。みんなインフルエンザにかかり、それが何にせよひどく厄介なのに、今度は泥棒に入られ、泥棒の後は召使のうちの一人の子供が何だかの病気にかかったのです。さらに、みな気落ちしているところへ追い打ちをかけるように、家の愛猫が突然悪性の皮膚病になりました。日一日と家中が重苦しい陰鬱な空気の中に沈んでいきま
す。信心深い者は寺への供物のことをささやき出し、他の者も心乱している様子です。何か根深い不運が家自体に、又は家の敷地にとりついているとしか考えられないというわけです。いずれにせよ、みな不安感を鎮めるために何かする必要があるました。

そこで私たち自身、お寺に御参りをして供物を捧げ、和尚さんに会ってくることに同意しました。それは愉快的な経験でした。私たちは年老いた女中にすべて任せると、しかるべき小さなお寺に連れてゆかれ、そこで住職の丁寧な出迎えを受けたのです。一同みな畳の上に膝をついて挨拶を交わしました。一方、私たちのお供え物——清酒一、二本に野菜——は祭壇の目につくところに飾られてあります。それから座って話をしたのです。少なくとも私は、おしとやかに座ったままわかるかぎり話に耳を傾けました。さしあたっての問題には一言も触れませんでした。それは素朴な人々の関心事なのです。でも二人の教養ある紳士は、信と行の相對価値という大昔からの問題を語り合つて素敵な半時ばかりを過ごしました。そして最後にお茶をいただいてお暇いとまし、この実に感じのいい午後の訪問を終えて帰ると、家では何もかも平静を取り戻してしまいました。どんな災いがあたりにひそんでいたにせよ、私たちが住職に面会したことで、明らかに力を失ったはずなのですから。

使用人組合は会報を発行しており、ある号にわが家の晩餐会のメニューのひとつが載ったことがありました。コックが私たちに御馳走が連なる立派なリストを見せてくれたので、実際の晩餐はもっと短かくて、皿数も二、三少なかったはずだと抗議しました。すると彼は「さようでございます」と私たちに諭し顔で言うのです。「しかしながら、本来ならば、全体の釣合いのためにこれらの料理が加わって然るべきだったのです。ただ、ご主人様と奥様が長い晩餐をお好みになられないので、はずしたまででございます。」

出されるスープ類は絶品です。そして魚に関しては、もとより日本は魚類の素晴らしさで有名なのです。鶏卵は何百万という単位で生産されており、鶏肉、鶯鳥、七面鳥は申し分なく、良質の日本産牛肉が手に入り、ハム類も一級品ではないものの大変美味です。あらゆる種類のパンをあちこちのパン屋が焼きあげるし、おいしい日

本のチョコレートのほかドイツと白ロシアとソ連のチョコレートもあります。羊肉はカナダとニュージーランドとオーストラリアから輸入しなければなりません。日本では羊の牧場がないためです。ごく最近まで国のいたるところで猟鳥獣類が豊富で、野鴨や鴨が今では東京郊外となっているような所に巢を作っていました。この頃では密集した人口と林立する工場と農地の集中的開拓が鳥や獣をずっと遠くの方へと追いやってしまいました。それにもかかわらず、猟肉類が東京の市場まで送られてくるので、イギリス本国では高価な贅沢品もここでは安く賞味できる御馳走となるのです。

野菜は思いつくかぎり挙げてみても、手に入らないものはありません。ただ、種類によっては大変結構な質のものもありますが、平均すると、私たちヨーロッパ北部の野菜の持つ風味に欠けると認めざるを得ないでしょう。日本の夏は暑さが厳しすぎて微妙な風味が出ないのです。

果実類は実に素晴らしい。日本本国および台湾のオレンジ、さらにはカリフォルニアからの輸入物、北海道と朝鮮の林檎、天国から届いたような水蜜桃、ノルマンディ産のものに勝るとも劣らぬとしか言えないような梨、畑栽培の葡萄、無花果、メロン、柿、ビワという上品で美味な果物、粒の大きさも風味も容易には凌ぎがたい苺。そしてこれらの苺はおおむね南向きの日当たりの良い段々畑につくられた特別な石垣の割れ目で栽培されていて、真夏の暑い最中の一二月を除いて一年中、市場に出荷されます。

ミルクは伝統的な日本食の中には含まれないので、したがって消費量も少なく、科学的に生産しうるほどです。北海道および僅かな山間の農家を除けば、牛を放し飼いにし、のんびりと草を食ませることができるような牧草地がないため、牛はほとんど屋内で飼われています。そして、特殊な近代的経営の農場以外で、これほど清

潔な家畜小屋や家畜は世界中のどこにもないと認めざるをえません。

「バターはこうした農家の一部分で作られ、さらには、北海道の日本トランプピスト修道院では見事なカマンベールを生産しています。」

日本では数年前にミルクを飲むのが流行しだし、「ミルク・ホール」が人气的でした。それでしばらくは、そこで会って一杯飲むのが粋でカッコイイ冒険だったのです。でも現在では、カフェやバーや喫茶店といった他の似たような場所のひとつとしての位置をしめるようになりました。